TACHIUO TENYA MS

タチウオテンヤMS L、Hタイプが追加

◉三石忍プロデュースの「タチウオテンヤMS」は中弾性素材と高弾性素材をミックスした操作性と感度に優れたブランクス、これに高強度、高感度のスーパートップを搭載したテンヤタチウオ最強モデル。すでに多くのファンに認知されているが、既存の3アイテムに加え、L、Hの2タイプが追加発売される。まだスペックは未公開だが、発売は今夏。ファンの方なら今後の情報チェックをお忘れなきように。

▲ハリスをつかんで一気に取り込み

▲2本とも三石さんプロデュース、いずれ全貌が明かされる

▶この日釣れたのはすべて120センチ以上

L…穂持から曲がり込むタイプ

H…穂先はやや曲がる程度

▲エレキテル釣法を駆使するが

▲指幅6本はある大型も

▶濃い魚探反応は出るが、食い気が今一つ

▼最大は126センチだった

「MSの早掛けバージョンといえるタイプです」

アタリ即合わせに向くのは反発力が高い素材、短めのソリッド穂先、極先調子といった特性が必要となる。確かに40号のテンヤをぶら下げると、穂先がわずかにお辞儀する程度だ。

「手感度はMSの中でも最高です」と三石さん。開始30分ほどで、傍らでは見えないアタリをとらえて1本目、120センチ級を取り込んだ。

これから怒涛の連チャンかと思ったが、あとが続かない。魚探反応はバッチリだが、食い気がないようだ。バイブレーション、ジャーク&ステイ、エレキテルなど様ざまな釣法を駆使するものの、アタリは遠い。

「今日の状況では最適とはいえませんが、もう1本も使ってみましょう」と言いながらLにチェンジ。

同じく40号テンヤでは穂持あたりから緩やかなカーブを見せる。

「置き竿でデッドスロー、浅場で軽いテンヤを使うとき、ウネリが高いときなどには向いています」

ナギで潮も流れない状況では掛け遅れも見られたが、なんとか126センチのドラゴンを釣って見せたのはさすがだ。以後はML、Mなどを使い分けながら納竿の11時を迎えた。

「この2本がそろえばテンタチファンのニーズ、様ざまな状況にも対応できるでしょう。私の中のロードマップが完成しました」と言いながら、三石さんは満足げに竿を仕舞った。

タチウオテンヤMS H
◉ガチガチの硬さではなく、良型にはクッション性を保ちつつバラシを防ぐ

タチウオテンヤMS L
◉柔軟ではあるものの、良型を引き上げるパットパワーを持つ

★一時ほどの釣れっぷりではないが、相変わらずサイズはいい

三石忍が茨城県日立沖でお披露目

SCOOP!!

テンヤタチウオを制する竿がまかつタチウオテンヤMS今夏にニュータイプ追加！

◉関東エリアでも今やタチウオの主流といえるテンヤ釣りで、多くのファンに支持されている竿が「がまかつタチウオテンヤMS」である。発売から約2年が経過し、新たに追加モデルの発売情報。さっそく三石忍さんにお願いし、お披露目釣行に同行した。

▲LとHが仲間入りする
◀5アイテムに増え、選択肢も広がった
▶全シリーズスパイラルガイド設定
▼強度と感度のスーパートップ

▲日立沖も東京湾と同じ、メインは40号テンヤ

「MSに追加モデルが発売されます。まだ詳細は言えませんが、より釣りの幅が広がり、より楽しくなるのは間違いないと思います」と三石さん。

これまで「タチウオテンヤMS」にはML、M、MHの3アイテムがあり、ほぼ全国の釣り場や釣り方に対応してきた。ところが発売当時に比べてテンヤファンの増加、関東エリアでの爆発的な流行、そして様ざまな釣法の誕生などで多用な竿のニーズを求められるようになっている。

三石さんはそんな状況を見越して早くから追加モデルを提案、今回の発表に至ったようだ。

新たに追加されるのはL、Hの2タイプ。実釣は茨城県日立久慈漁港の第八日正丸で行った。

ご存じのとおり、今期は昨年末あたりから茨城県海域のタチウオが大爆釣。ロングラン間違いなしと思いきや、3月中旬あたりから急激な下降線。今回の釣行もそんなときだったが、

「こんな状況だからこそ、竿の特性が分かりやすいんです」と三石さんは意に介さない。

5時過ぎに出船し、30分ほど走って水深35メートル前後のポイント着。長いクルージングの末、底から7メートルまでの指示で釣り開始となった。

テンヤは40号。三石さんがまず使用したのはHだった。

◉Presented by Gamakatsu　問い合わせ＝がまかつ☎0800・222・5895

取材協力◉茨城県日立久慈漁港　第八日正丸 ☎080・4181・1091